

●国際収支表について

日本の国際収支(総括表) (2005年, 単位: 億円)

(A)経常収支(①+②+③+④)		180,479
貿易・サービス収支(①+②)		76,027
①貿易(a)+(b)	自動車・電気製品などの商品貿易	103,502
(a)輸出		626,331
(b)輸入		522,829
②サービス収支	輸送運賃・旅行・通信・情報・特許料	-27,475
③所得収支	雇用者報酬・利子配当	113,595
④経常移転収支	食料など無償援助・国際機関への拠出金・労働者送金	-9,143
(B)資本収支		-139,575
①投資収支(i)+(ii)+(iii)+(iv)		-135,870
(i)直接投資	海外投資先の(子)会社の経営に参画するための株式取得	-47,316
(ii)証券投資	海外投資先の会社の配当・利子等を目的とした株や債券の取得	-10,885
(iii)金融派生商品	オプション取引・スワップ	-7,652
(iv)その他投資	貸付け・借入れ，ローンでの貿易，預金	-70,016
②その他資本収支	無償での固定資産・所有権の移転や債務免除など	-3,705
(C)外貨準備増減	日銀などが保有する金塊，現金・預金・債券などの外貨資産	-24,562
誤差脱漏	(A)+(B)+(C)=16,342 これですれを調整	-16,342

表の見方

(1) (B)の資本収支の項目がマイナスになっているのは，2005年1年間の投資において，日本の海外投資が，海外からの日本への投資を上回っていること，つまり日本が株券や債券を輸入（投資）し，代金を支払っていることを示す。「②サービス収支」がマイナスになっているのも同様の意味。外国人が日本に旅行に来てお金を使うより，日本人が海外旅行で使うお金が多いことが表されている。

(2) (B)(1)(i)(ii)証券投資と直接投資

第2次世界大戦後，国際的投資の主流は証券投資から直接投資へと転換した。証券投資は株式や債券などの利子や配当を目的に行われ，投資先の経営には直接関与しない。20世紀初頭以降，先進資本主義国の英・仏・独から，資本蓄積が不十分な後発資本主義国や植民地などに投資された。これに対して第2次世界大戦後は，直接投資が主流となったが，直接投資は，投資家（親会社）が投資企業（子会社など）の経営に対する長期的な権益を有することを目的とした

株式取得，資金貸借などの企業間取引である。アメリカ商務省の基準では，「単一の個人（person）が10%以上の企業支配権を持つこと」と定義している。しかし実際は100%出資の子会社の設立が一般的である。

1950年代末から60年代にかけての米・IBM社のヨーロッパ展開は，直接投資の典型事例である。ヨーロッパ（チューリッヒ）とアジア（東京），アメリカ本国（2ヵ所）に基礎研究所，世界22ヵ国に製品開発研究所を持ち，それぞれの研究所では分野の違う製品開発を行う。全世界特にヨーロッパのコンピュータ会社をIBMの傘下に包摂・編成し，国際研究・分業体制を敷き，研究・技術支配に基づき西ヨーロッパ全域で市場の独占的支配を行った。コンピュータによってヨーロッパ各国の航空・ミサイル・宇宙，原子力などの先端産業をも支配する。この支配は軍事戦略にも及ぶ。なぜならヨーロッパ各国軍をNATO軍の防空システムに組み込み，コンピュータによって支配できるからである。

(3) (c)外貨準備増減

円高は輸出企業にとって不利である。日本政府は円高のとき，銀行に頼んで外国為替市場で円売り・ドル買いを行い，円高阻止をしようとする。これが外貨準備の増大の主たる要因である。為替介入に使う資金は「外国為替資金特別会計」で管理されている。介入に必要な円資金は短期の国債を発行し，市場から借金の形で集める。円売り・ドル買い介入の結果手にしたドルなどの外貨は，米国債（ドル建て）などで運用している。この資産は常に為替変動のリスクにさらされている。

(4) 東京外国為替市場はどこにあるのか。どこでどうやって，為替の取引が行われているのか。東京の兜町に東京証券取引所，築地に生鮮食品市場があるが，「東京外国為替市場」はない。では，テレビ・ニュースで映っている「東京外国為替市場」はいったい何か。普通，外国為替市場とは銀行同士の取引を指し，その取引を専門の仲介業者に依頼している。テレビ映像は民間の取引仲介会社が取引を仲介している映像である。

3.3 IMF=GATT(ドル)体制の機能不全

(1) IMF=GATT(ドル)体制の機能不全

すでに述べたように，アメリカは「社会主義」体制「封じ込め」を基本戦略としてきた。そして自国通貨ドルを世界通貨ドルとして世界中にばらまいてきた。「ドル散布」である。ドル紙幣は世界中に堆積していった。インフレーションは必至である。すでに1958年の国際収支の悪化（1958年12億8600万